

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	数学	学年	3	年		時間数	140	時間
----	----	----	---	---	--	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学3 新編 数学 I 新編 数学A	出版社名	啓林館 数研出版
------	---------------------------	------	----------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	2章 平方根 1節 平方根	1 平方根 2 平方根の値 3 有理数と無理数	○	○	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 平方根の性質を学び、計算方法を学習します。二次方程式の解の求め方、文章問題の解き方を学習します。具体的な事象の中から、表・グラフ・式を使って、関数 $y=ax^2$ について理解します。三角形の相似条件を学び、相似の証明問題や線分の長さを相似比や三平方の定理を利用して求めていきます。「数学 I」は少し複雑な式の見方や展開、因数分解の仕方を学習します。「数学 A」は図形の様々な性質を学び、それらを使って図形を数学的に考察する方法を学びます。
		2節 根号をふくむ式の計算	4 真の値の近似値 1 根号をふくむ式の乗法、除法	◎	○	○	
		3節 平方根の利用	2 根号をふくむ式の計算	◎	○	○	
		3章 二次方程式 1節 二次方程式	1 平方根の利用	○	◎	○	
	5	3章 二次方程式 1節 二次方程式	1 二次方程式とその解き方 2 二次方程式の解の公式	◎	○	○	
		中間考査(5/13~5/14)		◎	◎		
	6	2節 二次方程式の利用	3 二次方程式と因数分解	◎	○	○	
		4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数とグラフ	1 二次方程式の利用	○	◎	○	
		2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化	1 関数 $y=ax^2$	○	○	◎	
		2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化	2 関数 $y=ax^2$ のグラフ	◎	○	○	
	7	2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化	1 関数 $y=ax^2$ の値の増減と変域 2 関数 $y=ax^2$ の変化の割合	○	◎	○	
		期末考査(6/25~7/1)		◎	◎		
3節 いろいろな事象と関数		1 $y=ax^2$ の利用 2 いろいろな関数	○	◎	○		
5章 図形と相似 1節 図形と相似		1 相似な図形 2 三角形の相似条件	○	○	◎		
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)				・平方根の計算を用い、より広い範囲での計算をすることができる。 ・二次方程式を用いて実際の問題を解決したり、考察したりすることができる。 ・2次関数について、表・式・グラフ相互に関連付けることができる。また、2次関数を用いて具体的な事象をとらえ、説明できる。 ・平面や空間の図形の性質について理解を深め、様々な図形を論理的に考察し処理することができる。 ・少し複雑な式の計算や因数分解ができる。	
	9	2節 平行線と線分の比	3 三角形の相似条件と証明	○	◎	○	
二 学 期	9	3節 相似な図形の条件	1 平行線と線分の比	◎	○	○	
		4節 相似の利用	2 中点連結定理	○	◎	○	
	10	6章 円の性質 1節 円周角と中心角	1 相似な図形の面積 2 相似な立体の表面積・体積	○	◎	○	
		中間考査(10/7~10/8)	1 相似の利用	○	◎	○	
	11	2節 円の性質の利用	1 円周角と中心角	◎	○	○	
		7章 三平方の定理 1節 直角三角形の3辺の関係	2 円周角の定理の逆	○	○	◎	
		2節 三平方の定理の利用	1 円の性質の利用	○	◎	○	
		8章 標本調査とデータの活用	1 三平方の定理	◎	○	○	
	12	1節 標本調査	1 三平方の定理の利用	○	◎	○	
		1節 標本調査	1 標本調査の方法 2 母集団と標本の関係	○	○	◎	
1節 標本調査		3 データを活用して、問題を解決しよう	○	○	◎		
期末考査(11/26~12/2)			◎	◎			
冬 季	12	数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	1 三角形の辺の比	◎	○	○	
		2節 図形の性質	2 三角形の外心・内心・重心	○	○	◎	
三 学 期	1	3 チェバの定理・メネラウスの定理		○	◎	○	
		4 円に内接する四角形		◎	○	○	
		5 円と直線 6 2つの円		◎	○	○	
		7 作図		○	○	◎	
	2	第2節 空間図形	8 直線と平面	◎	○	○	
		9 空間図形と多面体	9 空間図形と多面体	○	○	◎	
	3	学年末考査(2/20~2/27)		◎	◎		
		数学 I 第1章 数と式 第1節 式の計算	1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法	◎	○	○	
		3 因数分解	3 因数分解	○	◎	○	
		4 実数 5 根号を含む式の計算	4 実数 5 根号を含む式の計算	◎	○	○	

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学 I 数学 II 数学 A	学年	4 年	類型	共通	単位数	3 1 2	単位
----	----	----	-----------------------	----	-----	----	----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学 I	新編 数学 II	新編 数学 A	出版社名	数研出版
------	---------	----------	---------	------	------

学期	月	指導計画			評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単元	内容		知	思	主			
一 学 期	4	数学 I 第1章 数と式 第2節 実数	4 実数	5 根号を含む式の計算		◎	○	○	<p>授 業 の 概 要</p> <p>「数学 I」は、集合についての基本的な事項を理解し、命題などの考察を通して、論理的な思考力を伸ばします。また、前期課程で学んだ数学を踏まえて、更に発展させ、2次関数、図形と計量という高校数学の基礎・基本の分野に加えて、データの分析という分野を学習します。前期課程の数学と比べると内容が深くなっていますので、課題の量も多くなります。</p> <p>「数学 A」は、具体的な事象を数学的に処理するための基礎を身に付ける科目です。整数の性質や場合の数と確率の分野を学習します。</p> <p>「数学 II」は、「数学 I」、「数学 A」より進んだ内容として、方程式・式と証明を学習します。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学(数研出版)」を傍用しながら、模試問題なども解いていきます。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合と論理について理解し、論理的な思考を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができる。 ・2次関数のグラフを利用して、最大値・最小値の問題、2次不等式の問題などを解くことができる。 ・いろいろな図形の計量に、正弦定理、余弦定理、面積公式を活用できる。 ・ヒストグラムや箱ひげ図を利用して、データの分布を表現できる。 ・実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を求めることができる。 ・高次方程式を解くことができる。 <p>評 価 の 観 点</p> <p>知識・技能</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的に表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備 考</p>	
		第3節 1次不等式	6 不等式の性質	7 1次不等式		◎	○	○		
		数学 I 第2章 集合と命題	1 集合	2 命題と条件		○	◎	○		
		5	中間考査(5/13~5/16)	3 命題とその逆・対偶・裏	4 命題と証明		◎	○		○
	6	数学 I 第3章 2次関数	1 関数とグラフ	2 2次関数のグラフ		○	◎	○		
		第1節 2次関数とグラフ	2 2次関数のグラフ	3 2次関数の最大・最小		◎	○	○		
		第2節 2次関数の値の変化	3 2次関数の最大・最小	4 2次関数の決定		○	◎	○		
		7	期末考査(6/25~7/1)	5 2次方程式	6 2次関数のグラフとx軸の位置関係		◎	○		○
	夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)							
		9	数学 A 第1章 場合の数と確率	1 集合の要素の個数	2 場合の数		◎	○		○
	二 学 期	9	第1節 場合の数	3 順列	4 組合せ		◎	○		○
			第2節 確率	5 事象と確率	6 確率の基本性質		◎	○		○
10		中間考査5年(9/30~10/3)	7 独立な試行と確率							
10		中間考査4・6年(10/7~10/10)	8 条件付き確率							
11		数学 I 第4章 図形と計量 第1節 三角比	1 三角比	2 三角比の相互関係		○	◎	○		
11		第2節 三角形への応用	4 正弦定理	5 余弦定理		◎	○	○		
三 学 期	12	6 正弦定理と余弦定理の応用	7 三角形の面積		○	◎	○			
		8 空間図形への応用								
	12	期末考査(11/26~12/2)								
	12	数学 I 第5章 データの分析	1 データの整理	2 データの代表値		○	◎	○		
冬 季	1	3 データの散らばりと四分位数	4 分数と標準偏差		○	◎	○			
		5 2つの変量の間関係	6 仮説検定の考え方		○	○	◎			
		1 約数と倍数	2 素数と素因数分解		○	◎	○			
3	3 最大公約数・最小公倍数	4 整数の割り算		○	◎	○				
	5 ユークリッドの互除法	6 1次不定方程式		○	◎	○				
	7 記数法									
2	8 座標の考え方	9 ゲーム・パズルの中の数学		○	◎	○				
	2 数学 II 第1章 式と証明	1 3次式の展開と因数分解	2 二項定理		○	◎	○			
3	3	学年末考査4・5年(2/20~2/27)								
	3	第1節 式と計算	3 多項式の割り算	4 分数式とその計算		◎	○	○		
	3	第2節 等式・不等式の証明	5 恒等式	6 等式の証明		◎	○	○		
			6 等式の証明	7 不等式の証明		◎	○	○		

令和7年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学B	学年	5 年	類型	文科系	単位数	3 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	-----	--------	----

教科書名	新編 数学Ⅱ 新編 数学B	出版社名	数研出版
------	---------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	第3章 図形と方程式	1 直線上の点	2 平面上の点	○	◎	◎	<p>授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅱ」は、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分について、「数学Ⅰ」で学んだ基礎・基本をもとに、より深い内容を学習していきます。</p> <p>「数学B」は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、数列と統計的な推測について学習していきます。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学(数研出版)」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な図形の性質を理解し、問題解決に活用できる。 ・様々な関数の特徴をグラフで描いて捉えることができる。 ・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。 ・数列の規則性を把握できる。 ・数学的帰納法を用いて証明することができる。 ・統計的な推測の手法を理解し、推定や仮説検定に活用できる。 <p>評 価 の 観 点</p> <p>知識・技能</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備 考</p>
		第1節 点と直線	3 直線の方程式	4 2直線の関係	◎	◎	○	
		第2節 円	5 円の方程式	6 円と直線	◎	◎	○	
		第3節 軌跡と領域	8 軌跡と方程式	9 不等式の表す領域	○	◎	◎	
	5	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張	2 三角関数	◎	◎	○	
		中間考査(5/13~5/16)		3 三角関数のグラフ	◎	◎	○	
		第2節 加法定理	4 三角関数の性質	5 三角関数の方程式、不等式	◎	◎	○	
	6	第5章 指数関数と対数関数	6 加法定理		◎	◎	○	
		第1節 指数関数	7 加法定理の応用		○	◎	○	
		第2節 対数関数	1 指数の拡張		○	◎	◎	
	7	第1節 指数関数	2 指数関数		◎	◎	○	
		期末考査(6/25~7/1)			◎	◎	○	
8	第2節 対数関数	3 対数とその性質	4 対数関数	◎	◎	○		
	夏季休業日(7/19~8/24)	5 常用対数		○	◎	◎		
二 学 期	9	第6章 微分法と積分法	1 微分係数	2 導関数とその計算	◎	◎	○	
		第1節 微分係数と導関数	3 接線の方程式		◎	◎	○	
		第2節 関数の値の変化	4 関数の増減と極大・極小		◎	◎	○	
		第3節 積分法	5 関数の増減・グラフの応用		○	◎	◎	
	10	中間考査5年(9/30~10/3)	6 不定積分		◎	◎	○	
		中間考査4・6年(10/7~10/10)	7 定積分		◎	◎	○	
	11	数学B 第1章 数列	8 定積分と面積		◎	◎	○	
		第1節 等差数列と等比数列	1 数列と一般項	2 等差数列	◎	◎	○	
		第2節 いろいろな数列	3 等差数列の和		◎	◎	○	
			4 等比数列	5 等比数列の和	◎	◎	○	
	12		6 和の記号Σ		○	◎	◎	
			7 階差数列		◎	◎	○	
冬 季	期末考査(11/26~12/2)			◎	◎	○		
	冬季休業日(12/20~1/7)	8 いろいろな数列の和		◎	◎	○		
三 学 期	1	第2章 統計的な推測	10 数学的帰納法		○	◎	◎	
		第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布	2 確率変数の期待値と分散	◎	◎	○	
			3 確率変数の和と積		◎	◎	○	
	2	第2節 統計的な推測	4 二項分布		◎	◎	○	
		学年末考査4・5年(2/20~2/27)	5 正規分布		◎	◎	○	
3		6 母集団と標本	7 標本平均の分布	○	◎	◎		
		8 推定		○	◎	◎		
		9 仮説検定		○	◎	◎		
		〃		○	◎	◎		

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学B 数学C	学年	5年	類型	理科系	単位数	3 2 1	単位
----	----	----	-------------------	----	----	----	-----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学Ⅱ	新編 数学B	新編 数学C	出版社名	数研出版
------	--------	--------	--------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第3章 図形と方程式	1 直線上の点	2 平面上の点	○	◎	◎	<p>授業の概要</p> <p>「数学Ⅱ」は、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分について、「数学Ⅰ」で学んだ基礎・基本をもとに、より深い内容を学習していきます。</p> <p>「数学B」は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、数列と統計的な推測について学習していきます。</p> <p>「数学C」は、ベクトルの概念を導入し、図形の性質を考察していきます。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学(数研出版)」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。</p> <p>学習の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な図形の性質を理解し、問題解決に活用できる。 ・様々な関数の特徴をグラフで描いて捉えることができる。 ・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。 ・数列の規則性を把握できる。 ・数学的帰納法を用いて証明することができる。 ・統計的な推測の手法を理解し、推定や仮説検定に活用できる。 ・ベクトルの演算ができる。 ・ベクトルを用いて、図形の性質を考察することができる。 <p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>
		第1節 点と直線	3 直線の方程式	4 2直線の関係	◎	◎	○	
		第2節 円	5 円の方程式	6 円と直線	◎	◎	○	
		第3節 軌跡と領域	8 軌跡と方程式	9 不等式の表す領域	○	◎	◎	
	5	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張	2 三角関数	◎	◎	○	
		中間考査(5/13~5/16)		3 三角関数のグラフ	◎	◎	○	
		第2節 加法定理	4 三角関数の性質	5 三角関数の方程式、不等式	◎	◎	○	
	6	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	6 加法定理		◎	◎	○	
		第2節 対数関数	7 加法定理の応用		○	◎	○	
		第1節 指数関数	1 指数の拡張	2 指数関数	○	◎	◎	
		第2節 対数関数	3 対数とその性質	4 対数関数	◎	◎	○	
	7	期末考査(6/25~7/1)			◎	◎	○	
第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数		5 常用対数		◎	◎	○		
1 微分係数		2 導関数とその計算		◎	◎	○		
8	夏季休業日(7/19~8/24)							
	第2節 関数の値の変化	3 接線の方程式	4 関数の増減と極大・極小	5 関数の増減・グラフの応用	○	◎	◎	
9	第3節 積分法	6 不定積分			◎	◎	○	
	7 定積分				◎	◎	○	
	8 定積分と面積				○	◎	◎	
	中間考査5年(9/30~10/3)				◎	◎	○	
10	中間考査4・6年(10/7~10/10)	1 数列と一般項	2 等差数列		○	◎	◎	
	数学B 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	3 等差数列の和	4 等比数列		◎	◎	○	
	第2節 いろいろな数列	5 等比数列の和	6 和の記号Σ		◎	◎	○	
11	第3節 漸化式と数学的帰納法	7 階差数列	8 いろいろな数列の和		◎	◎	○	
	9 漸化式				◎	◎	○	
	10 数学的帰納法				◎	◎	○	
12	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布	2 確率変数の期待値と分散		○	◎	◎	
	期末考査(11/26~12/2)				◎	◎	○	
	第2節 統計的な推測	3 確率変数の和と積	4 二項分布	5 正規分布	◎	◎	○	
1	冬季休業日(12/20~1/7)				○	◎	◎	
	8 推定	9 仮説検定			◎	◎	○	
2	数学C 第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	2 ベクトルの演算	3 ベクトルの成分	○	◎	◎	
	第1節 ベクトルとその演算	4 ベクトルの内積			◎	◎	○	
	第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル	6 ベクトルの図形への応用		◎	◎	○	
3	第2章 空間のベクトル	7 図形のベクトルによる表示			◎	◎	○	
	1 空間の点	2 空間のベクトル	3 ベクトルの成分		○	◎	◎	
3	学年末考査4・5年(2/20~2/27)				◎	◎	○	
	4 ベクトルの内積				○	◎	◎	
	5 ベクトルの図形への応用				○	◎	◎	
	6 座標空間における図形				○	◎	◎	

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学 C 数学研究 I 数学研究 II	学年	6 年	類型	文科系	単位数	1 2 2	単位
----	----	----	---------------------------	----	-----	----	-----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学C 自作教科書(数学研究 I・II)	出版社名	数研出版 宇和島南中等教育学校
------	-------------------------	------	-----------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	数学C 第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	○	◎	◎	授 業 の 概 要 「数学C」では、ベクトルについて学習します。教科書傍用問題集「クリアー数学」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。 「数学研究 I・II」では、数学 I、数学 II、数学 A、数学 B、数学 C の範囲を系統的に学習します。大学入学共通テスト、国公立大学2次試験レベルの問題を解きます。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付けていきます。	
		第1節 ベクトルとその演算	2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分	◎	◎	○		
		第2節 ベクトルと平面図形	4 ベクトルの内積	◎	◎	○		
		5 位置ベクトル	6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	◎	◎	○		
	5	中間考査(5/13~5/16)			◎	◎		
		第2章 空間のベクトル	1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分	◎	◎	○		
		4 ベクトルの内積	4 ベクトルの内積	◎	◎	○		
6	5 ベクトルの図形への応用	5 ベクトルの図形への応用	◎	◎	○			
	6 座標空間における図形	6 座標空間における図形	◎	◎	○			
	7 演習問題	7 演習問題	◎	○	◎			
7	期末考査(6/25~7/1)			◎	◎			
	数学研究 I・II 問題演習	1 数と式 2 図形と計量	◎	◎	○			
	3 集合と命題 4 2次関数	3 集合と命題 4 2次関数	◎	◎	○			
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
	9	問題演習	5 場合の数と確率	◎	◎	○		
二 学 期	9	6 図形の性質	6 図形の性質	◎	◎	○	評 価 の 観 点 知識・技能 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		7 データの分析	7 データの分析	◎	◎	○		
		8 式と証明	8 式と証明	◎	◎	○		
		9 複素数と方程式	9 複素数と方程式	◎	◎	○		
	10	中間考査5年(9/30~10/3)	10 図形と方程式	◎	◎	○		
		中間考査4・6年(10/7~10/10)			◎	◎		
		問題演習	11 三角関数	◎	◎	○		
11	12 指数関数と対数関数	12 指数関数と対数関数	◎	◎	○	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		
	13 微分法と積分法	13 微分法と積分法	◎	◎	○			
	14 確率分布と統計的な推測	14 確率分布と統計的な推測	◎	◎	○			
	15 数列	15 数列	◎	◎	○			
12	16 ベクトル	16 ベクトル	◎	◎	○			
	期末考査(11/26~12/2)			◎	◎			
	問題演習	総合問題演習	◎	○	◎			
冬 季	12	問題演習	総合問題演習	◎	○	◎		
	冬季休業日(12/20~1/7)							
三 学 期	1	問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		総合問題演習	総合問題演習	◎	○	◎		
		総合問題演習	総合問題演習	◎	○	◎		
		総合問題演習	総合問題演習	◎	○	◎		
	2	家庭学習	家庭学習	○	○	○		
3				○	○	○	備 考	
				○	○	○		

シ ラ バ ス
令和7年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数 学 Ⅲ 数 学 C 数学研究Ⅱ	学 年	6 年	類 型	理科系	単 位 数	3 1 2	単位
----	----	----	-------------------------	-----	-----	-----	-----	-------	-------------	----

教科書名	新編 数学Ⅲ 新編 数学C 自作教科書(数学研究Ⅱ)	出版社名	数研出版 宇和島南中等教育学校
------	----------------------------	------	-----------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	数学C 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動	◎	◎	○	授 業 の 概 要 「数学Ⅲ」では、これまでの知識を統合しながら、関数、極限、微分法、微分法の応用、積分法、積分法の応用について学びます。「数学C」では、式と曲線について学びます。教科書傍用問題集「クリアー」を使用しながら、学力定着を図ります。「数学研究Ⅱ」では、大学入学共通テスト、国公立大学2次試験レベルの問題を解き、考える力、応用力を身に付けていきます。	
		第2節 媒介変数表示と極座標	5 2次曲線と直線 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式	◎	◎	○		
		数学Ⅲ 第1章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	◎	◎	○		
		第2章 極限 第1節 数列の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数	◎	◎	○		
	5	中間考査(5/13~5/16)			◎	◎		
		第2節 関数の極限	4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	◎	◎	○		
	6	第3章 微分法 第1節 導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	◎	◎	○		
		第2節 いろいろな関数の導関数	3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	◎	◎	○		
		期末考査(6/25~7/1)		◎	◎			
	7	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ	◎	◎	○		
		夏季休業日(7/19~8/24)						
	二 学 期	8	第2節 いろいろな応用	5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	◎	◎		○
第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分			1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分	◎	◎	○		
9		第2節 定積分	4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題	◎	◎	○		
		第3節 積分法の応用	7 面積 8 体積	◎	◎	○		
		中間考査5年(9/30~10/3)	9 道のり 10 曲線の長さ	◎	◎	○		
10		中間考査4・6年(10/7~10/10)			◎	◎		
		問題演習	1 数と式 2 図形と計量 3 集合と命題 4 2次関数 5 場合の数と確率 6 図形の性質 7 データの分析 8 式と証明 9 複素数と方程式 10 図形と方程式 11 三角関数 12 指数関数と対数関数 13 微分法と積分法 14 確率分布と統計的な推測 15 数列 16 ベクトル	◎	◎	○		
		期末考査(11/26~12/2)		◎	◎			
		問題演習	総合問題演習 総合問題演習	◎	◎	◎		
		問題演習	総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎		
冬 季		冬季休業日(12/20~1/7)						
		問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎		
三 学 期	1	問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎		
		問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎		
2	問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎			
	問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎			
3	問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎			
	問題演習	総合問題演習 総合問題演習 総合問題演習 家庭学習	◎	◎	◎			

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	実用数学	学年	6年	類型	文科系	単位数	3	単位
----	----	----	------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	自作教科書(実用数学)	出版社名	宇和島南中等教育学校
------	-------------	------	------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	基本問題演習	1 数と式、集合と命題	○	◎	◎	授業の概要 数学Ⅰ、数学Aの範囲を系統的に学習します。専門学校入試対策、大学入学共通テスト対策、私立大学入試対策として、幅広い形式の問題を扱います。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付けます。 学習の到達目標 ・専門学校入試問題、大学入学共通テスト、私立大学入試問題を解くことができる。
			2 2次関数	◎	◎	○	
			3 場合の数と確率	◎	◎	○	
	5	基本問題演習	中間考査(5/13~5/16)	◎	◎		
			4 図形と計量	◎	◎	○	
			5 図形の性質	◎	◎	○	
	6	基本問題演習	期末考査(6/25~7/1)	◎	◎		
			6 データの分析	◎	◎	○	
			◎	◎	○		
	7	基本問題演習	◎	◎	○		
			◎	◎	○		
			◎	◎	○		
8	夏季休業日(7/19~8/24)						
二学期	9	実用問題演習	1 数と式、集合と命題	◎	◎	○	評価の観点 知識・技能 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。
			2 2次関数	◎	◎	○	
			3 場合の数と確率	◎	◎	○	
	10	実用問題演習	中間考査5年(9/30~10/3)	◎	◎		
			4 図形と計量	◎	◎	○	
			5 図形の性質	◎	◎	○	
	11	実用問題演習	中間考査4・6年(10/7~10/10)	◎	◎		
			6 データの分析	◎	◎	○	
			◎	◎	○		
	12	実用問題演習	期末考査(11/26~12/2)	◎	◎		
			総合問題演習	◎	○	◎	
			総合問題演習	◎	○	◎	
冬季	実用問題演習	冬季休業日(12/20~1/7)					
三学期	1	実用問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備考
			総合問題演習	◎	○	◎	
			総合問題演習	◎	○	◎	
2	実用問題演習	総合問題演習	◎	○	◎		
		◎	○	◎			
		◎	○	◎			
3	実用問題演習	家庭学習	◎	○	◎		
		◎	○	◎			
		◎	○	◎			